





## 審査結果報告書

平成29年1月13日

主査氏名 益日典幸 

副査氏名 大木幹文 

副査氏名 佐野 謙 

副査氏名 長沼 克明 

1. 申請者氏名 : 山口 知子

2. 論文テーマ : Differences in urinary leukotriene E4 levels and distribution of eosinophils between chronic rhinosinusitis patients with aspirin-intolerant and -tolerant asthma  
(アスピリン不耐性喘息とアスピリン耐性喘息間における尿中-LTE4 と慢性副鼻腔炎副鼻腔粘膜への好酸球分布の違い)

3. 論文審査結果 :

本研究では、鼻副鼻腔内視鏡手術の前に尿中ロイコトリエン E4 (U-LTE4) 濃度、血中好酸球比率、上顎洞・篩骨洞粘膜組織中の好酸球数を 58 人の慢性副鼻腔炎患者 {15 人のアスピリン不耐性喘息(AIA)と 15 人のアスピリン耐性喘息(ATA)が含まれる} で測定し、篩骨洞と上顎洞粘膜での好酸球浸潤の差、気管支喘息・AIA 合併慢性副鼻腔炎の好酸球分布傾向、副鼻腔粘膜組織中の好酸球浸潤と U-LTE4 との相関を評価した。喘息を合併した(AIA+ATA)群では篩骨洞粘膜組織中の好酸球数・血中好酸球比率が有意に多かった。ATA 群では篩骨洞と上顎洞粘膜組織中の好酸球分布に差がなかったが、AIA 群では上顎洞に比べて篩骨洞粘膜組織優位に好酸球が分布した。control 群では篩骨洞に比べて上顎洞粘膜組織優位に好酸球が分布した。病理組織学的にも篩骨に好酸球性浸潤が強かった。それゆえ、AIA では篩骨洞粘膜が主要な cysteinyl leukotriene 産生部位かもしれない。AIA の副鼻腔炎では篩骨洞でロイコトリエン—好酸球相互作用を起こしていることが推察されたことが報告された。この内容に対して審査員から各副鼻腔の粘膜の採取数、組織の中で不均一に分布している好酸球数をどのように評価したのかなどの質問がなされた。これに対して申請者の回答・説明は明快であり、適切であると評価された。以上より本研究は学術的成果に資する価値ある業績と評価され、学位論文に値すると判定された。